



システムを世界へ

沖縄県では戦後、資金や人材不足、地理的困難を抱えながらも、住民と共に感染症対策に取り組み、マラリアなど熱帯感染症の撲滅を実現した。その経験を学びに、開発途上国から研修員が訪れている。

沖縄県



沖縄県
面積約2,276km²、人口約142万人。かつて琉球王国として中国や東南アジアとの貿易で栄えた。世界に開かれた国際交流拠点として、日本とアジアの発展に貢献する「21世紀の万国津梁(世界の架け橋)」を目指す。JICA沖縄国際センターでは、沖縄の強みを生かし、感染症対策などの研修で海外研修員を受け入れているほか、地元での国際交流も支援している。



なかもともひさ
沖縄県の仲本朝久保健医療部長を表敬したあと、県庁を見学する研修員

昔の人の努力があって 今の沖縄がある

沖縄の人々は地域をこよなく愛している。涼しげに「かりゆしウエア」をまとい、地元の色、地元の音楽を愛で、世代を越えて地域の誇りを受け継いできた。それは、先人の努力のたまものでもある。

沖縄では戦後、劣悪な衛生状況で感染症がまん延し、多くの住民が苦しんだ。それでも資金・人材不足や多くの離島を持つというハンディを乗り越えて、マラリアなどの熱帯感染症を撲滅し、すべての人が保健医療サービスを受けられる環境を実現した。

これを支えたのは、行政機関や病院、離島の診療所間の連携、そして離島やへき地を含む各地域への保健婦駐在という沖縄ならではの制度だった。住民も協力して、地域一丸となって公衆衛生の改善に取り組んだ沖縄の経験は、海を越え、世界に伝えられている。

今年4月、開所から30周年を迎えたJICA沖縄国際センターでは、島しよ性や亜熱帯性、独自の歴史など沖縄の特徴を生かし、世界各国から研修員を受け入れてさまざまな研修を展開してきた。「地域保健システム強化による感染症対策」の研修もその一つだ。

6月1日、開講式を終えた研修員は、さっそく沖縄の保健医療について講義を受けていた。ハイチやマーシャル諸島、ウズベキスタンなど6カ国から集まった12人の研修員は、各国の医師や

地域保健



沖縄看護協会の奥平登美子会長から日本の看護教育などについて講義を受けた

看護師、あるいは保健省などの行政官だ。「この研修では、肩書きは関係ありません。文化も立場も異なる人々が、7週間、対等に意見を交わしながら、互いに協力することを学ぶのも研修の大事な目的なのです」と、公益社団法人沖縄看護協会(沖縄看護協会)で海外研修を総括する銘苅辰美さんは説明する。

住民と共に 地域の健康を考える

沖縄看護協会は、地域の保健師・助産師・看護師・准看護師で構成される団体で、看護の質の向上や看護職が安心して働き続けられる環境づくりを通して人々の健康的な生活を支えている。また、JICAとの連携の下、1996年から開発途上国の保健医療の向上と人材育成を目指して海外研修員を受け入れてきた。

沖縄看護協会による「地域保健システム強化による感染症対策」研修の強みは、実際にマラリアなどの感染症撲滅に携わった医師や保健師から直接話を聞くことができる点だ。

保健師とは、地区活動や健康教育、保健指導を通して病気の予防や、健康増進など公衆衛生活動を行う看護

護の専門職のこと。沖縄では戦後の1951年から、県に採用された保健婦(現保健師。本土復帰前は公衆衛生看護婦)が2〜3年間医師の少ない離島やへき地の保健婦駐在所に住み込み、住民と生活を共にしながら地域の健康を支えた。

銘苅さんも粟国島に2年、西表島に3年駐在した経験を持ち、保健師としての自身の経験を研修で伝えてきた。「その地域で生活することにより、

人々の生活状況を理解し、健康問題の対策に生かすことができました。感染症の撲滅には住民の協力が不可欠です。例えば、フィリアアの検査は夜間に地域住民全員に行う必要があります、人々の協力なくして効果的な対策はできません。ほかにも、マラリア対策のために住民みんなで水たまりに薬剤を散布するなど、モノ・ヒト・カネの無い時代にも人々が協力して感染症対策に取り組んできたのです」と、銘苅さんは地域社会を中心に据えた取り組みの重要性を強調する。

研修員が目指すのは、このような地域保健の考え方を学び、できることから母国で実践し、根気強く推進していくことだ。ハイチで学校を回って移動診療を行う医師のカサンドレさんは「子どものマラリアやコレラ対策のために研修に励みたい」と話す。

沖縄看護協会やJICA沖縄の職員にとって、研修員らは地元を訪れる大切なお客さまでもある。顔合わせの交



沖縄看護協会と研修員の交流会では、出席者がみな輪になり沖縄の音楽に合わせて踊った



過去の研修員(ボリビア)は、母国でオリジナルの水道を作って手洗い習慣の普及に取り組んでいる

流会では精一杯のおもてなしで歓迎し、会場には沖縄の青い空のように突き抜ける笑顔が輝いた。7週間の研修を終える頃には、研修員はすっかり沖縄のファンになるといふ。

今後は、宮古島や各地の医療機関を訪れての研修も始まる。沖縄の知恵と、人々の明るく温かい人柄が世界の感染症対策を支えている。